

検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

さてこの度、下記の検査項目につきまして、検査内容を変更させていただきますので取り急ぎご案内致します。

誠に勝手ではございますが、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

謹白

記

対象項目/変更内容

項目コード	検査項目名	変更箇所	新	旧	備考
3465	尿中L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)	検査方法 保存方法 報告上限 所要日数	LA法 (ラテックス凝集比濁法) 凍結 濃度 9,999,900 ng/mL以上 2~3日	CLEIA法 冷蔵 濃度 200,000 ng/mL以上 3~4日	所要日数の短縮
473	EBV VCA IgG	検査方法	FAT	FAT	測定試薬の販売中止
475	EBV VCA IgM				
474	EBV VCA IgA				
476	EBV EA-DR IgG				
477	EBV EA-DR IgA				
479	EBV EBNA				
2626	便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	検査方法 採便容器	EIA 別掲資料参照	EIA —	試薬変更に伴う容器変更
1853	腫瘍壊死因子- α (TNF- α)	検査方法 健常者参考値 報告下限	CLEIA 2.26~11.1pg/mL 2.24pg/mL未満	CLEIA 1.79 以下 0.55 未満	測定試薬の販売中止

変更期日

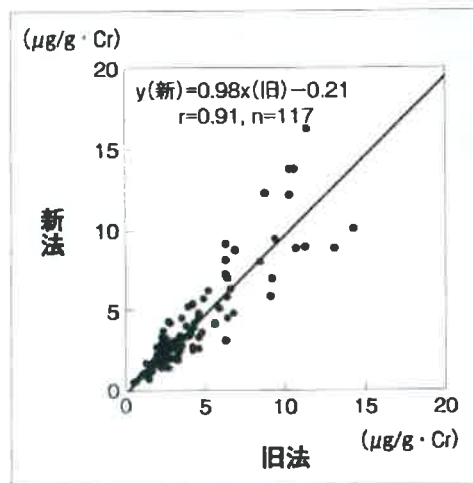
- 令和元年 10 月 1 日(火)受付日分より

尿中L型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP)

尿中L型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) の検査方法をCLEIA法からラテックス凝集比濁法に変更するとともに、報告所要日数を短縮致します。

新旧二法の相関は良好であり、基準値の変更はございません。

新旧二法の相関



(社内検討データ)

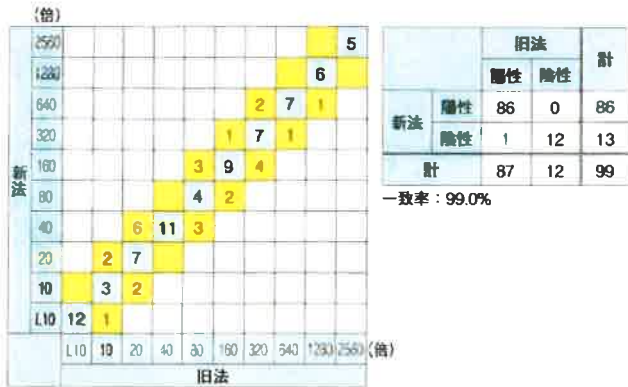
参考文献

山田暁, 他: 日本臨床検査自動化学会会誌 43 (3): 252-259, 2018.

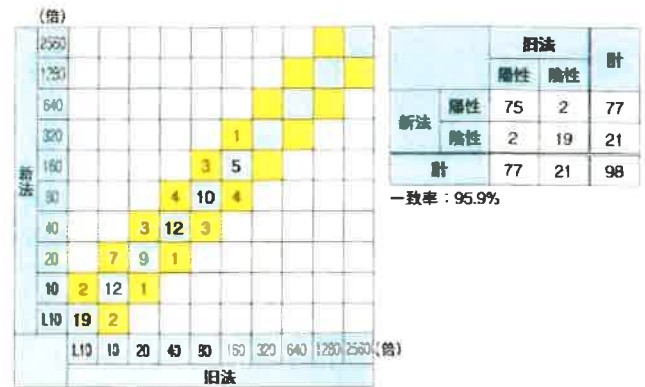
EBウイルス

現行試薬の販売中止に伴い、別メーカーのFAT試薬に変更致します。
 新旧二法の相関は良好であり、基準値の変更はございません。

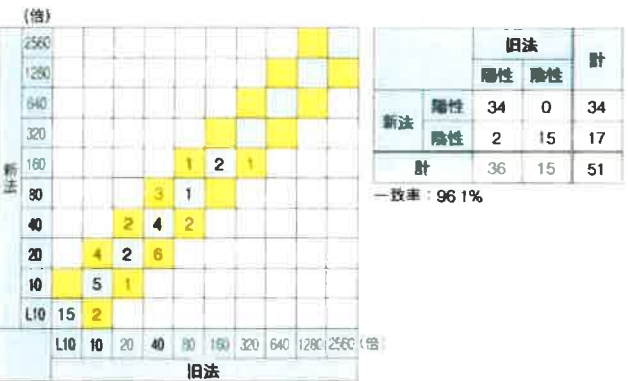
[VCA-IgG]



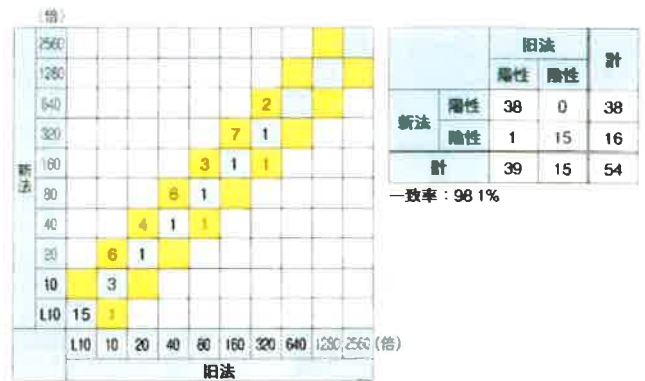
[VCA-IgM]



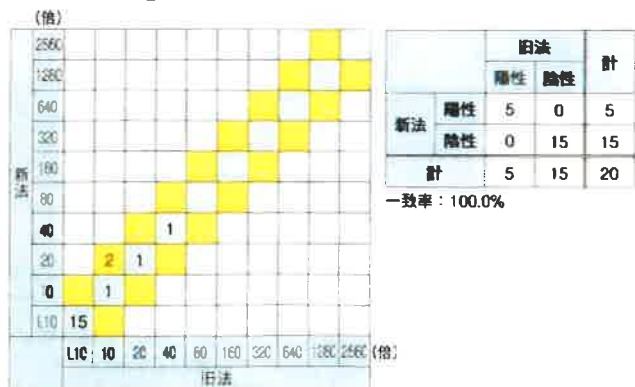
[VCA-IgA]



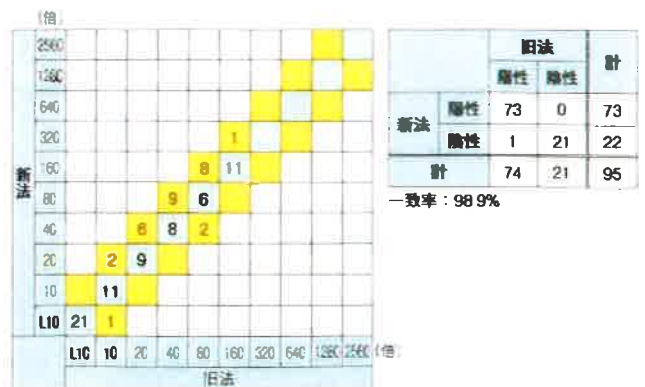
[EA-DR-IgG]



[EA-DR-IgA]



[EBNA]



(社内検討データ)

便中ヘリコバクター・ピロリ抗原

便中ヘリコバクター・ピロリ抗原の測定試薬を別メーカーの試薬に変更致します。なお、変更に際しまして、検体提出時に使用する採便容器が変更(新試薬専用採便容器)となりますので、変更期日以降、現在ご使用の採便容器ではお預かりできませんので、ご提出の際は留意下さい。

変更内容	新	旧
検査方法	EIA	同左
採便容器	便中H.ピロリ抗原用採便管	同左
容器番号	76番	同左
添加剤	リン酸バッファー	同左
保管方法	常温	同左
有効期間	容器表示	同左

※ 項目コード等の検査要項および糞便の採取方法等に変更はございません。

(新旧二法の相関は良好で全体一致率100%)

本検査では専用の採便容器を採用しておりますので、10月1日以降、検体採取の際は新採便容器でご提出下さい。

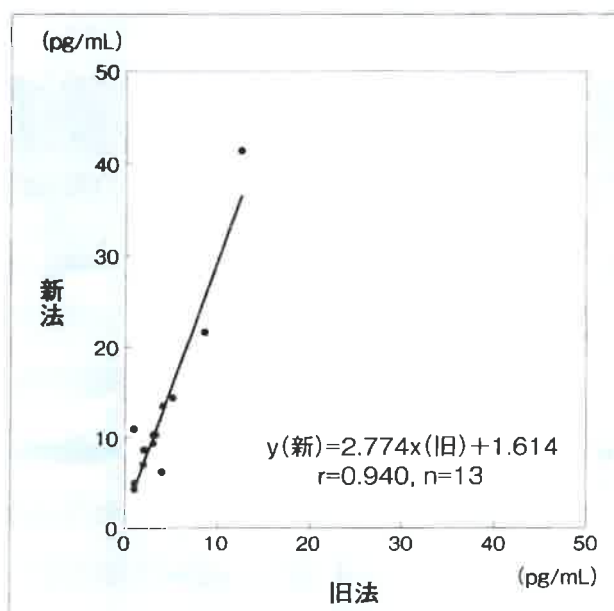
新採便容器は、弊社担当者よりお届けさせていただきますので、現採便容器との差替えをお願い致します。

TNF- α

現行試薬の販売中止に伴い、測定試薬を同一メーカーが販売する後継品に変更致します。

新法による測定値は、校正用基準物質(WHO標準品)の更新ならびに使用抗体の違いから、見掛け上旧法に比べて3倍程高くなりますが、“検出限界未滿”となる頻度は著しく低減しており、実質的な感度は向上しているものと考えられます。

新旧二法の相関



(社内検討データ)